

## 学則変更の趣旨等を記載した書類

### 1. 学則変更（収容定員変更）の内容

富山大学医学部医学科の平成21年度以降の入学定員については、平成21年度に「緊急医師確保対策」に基づき平成29年度までの期限を付した5名の臨時定員増を、また、平成22年度に「地域の医師確保の観点からの増」に基づき平成31年度までの期限を付した5名の臨時定員増を、平成29年度に期限を迎えた5名に対する平成31年度までの臨時定員増を、平成31年度に期限を迎えた10名に対する臨時定員増を令和2年度以降、令和5年度まで継続して実施した。

令和5年度を期限とする計10名の入学定員について、令和6年度に再度の入学定員増を行い、入学定員は、令和6年度に再度の入学定員増を行わなかった場合の95名から105名に変更する。

令和6年度までの期限を付した入学定員増を踏まえ、令和11年度の収容定員については、再度の定員増を行わなかった場合の595名から605名に変更する。

### 2. 学則変更（収容定員変更）の必要性

地域医療に貢献する優れた人材を養成することは、昭和50年の富山医科薬科大学設立時からの使命であり、本学医学部医学科においても、「地域の人々に貢献し、国際性を備えた医療人」の育成を教育目標として、人材養成に努めている。

本学においては、平成19年度入試から新たに医学部医学科に募集人員8人以内の推薦入試「地域枠」を導入したが、深刻な医師不足の状況を打破するにはまだ十分ではなく、富山県における医師不足解消に貢献するために、平成21年度から富山県との緊密な連携・協力により、医学部医学科に地域定着策による自己推薦入試「特別枠」として臨時定員5人増と「経済財政改革の基本方針2008」を受けた「地域枠」の募集人員の5人増を実施した。さらに、平成22年度からは「経済財政改革の基本方針2009」を踏まえ、地域の医師確保に早急に対応するため、富山県との緊密な連携・協力のもと県内大学増員可能枠最大の臨時定員5人増を実施したが、依然として特定診療科の医師不足問題が解消しないことから、令和5年度まで継続して10名の入学定員の増員を行っている。

富山県医療構想（平成30年3月改訂）では、富山県が目指す医療提供体制の課題として、特定診療科の医師の確保・養成の必要性が挙げられており、今回、令和6年度までの期限を付した再度の入学定員増を行い、「富山県特別枠」を継続することにより、富山県全体での医師の充足を目指した総合的な医師確保対策の推進に寄与する。

### 3. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

本学は、高度の知識を授けるとともに、時代の要請と地域社会の要望に応え得る有為な人材を育成し、併せて、医学の進展と社会の福祉に貢献してきた。

収容定員の変更は、令和5年度まで期限を付して実施した10名の臨時定員増を、令和6年度まで再度行うものであるため、特段の教育課程等の変更はなく、定員変更前の教育課程と比較しても、同等以上の内容は担保している。

引き続き、下記の(1)「地域医療」に関するカリキュラム(2)富山県との連携(3)医療機関としての地域医療への貢献等について実施する。

#### (1)「地域医療」に関するカリキュラム

医学部医学科専門教育科目については、一部の選択科目を除き全て必修となっている。

専門教育科目は、将来の医師育成のため、1年次に行う早期基礎臨床体験実習に始まり、医療学入門、介護体験実習等において少人数グループに分かれての実習及びクラス全員で集まり行う総合討論など、カリキュラムに勉学のモチベーションを高める工夫を取り入れている。3年次では、社会医学系の講義において、地域医療に関する内容を取り込んでいるほか、4年次後半から実施する臨床実習において、地域中核病院での実習を取り入れ、地域医療の現場において実践的な教育を行っている。

#### 富山大学医学部医学科の地域医療に関する教育課程の特色

地域定着の一環として、1年次から地域医療に関心を持たせるため、地域医療をテーマとしたPBLテュートリアルを医学概論の講義において導入している。また、同じく1年次に行う医療学入門においては、地域の保健・福祉を理解し、将来の医療人としての態度を育成するため、主に富山県内の福祉施設等において1週間の介護体験実習を取り入れている。

3年次では、環境保健学の講義で、社会と健康・疾病との関係や地域医療について理解し、個体及び集団をとりまく環境要因の変化による個人の健康と社会生活への影響について学ぶ。

対人保健学は令和4年度から疫学と名称変更し、疫学の講義では、教員が実行委員として参画した疫学調査（富山県認知症高齢者実態調査）の経験やデータに基づき、富山県の認知症の実態、将来予測、対策について学ぶ。また、対人保健学から一部学修内容を移動した富山医療学の講義では、国の保健・医療・福祉と介護の制度（母子保健、老人保健、精神保健、学校保健、医療関連法規）を学修するとともに、富山県医師会や全国健康保険協会富山支部、富山県の協力を得て、国の制度と比較しつつ、富山県の保健・医療・福祉と介護の現状や課題及び今後について学ぶ。

また、4年次から6年次での臨床実習では、総合診療科において、地域医療に関するレクチャーを行うほか、豊富な臨床例を持つ富山県内を中心とする9の地域中核病院に

において、5日間の地域医療実習を実施している。

さらに5年次から6年次では、富山県内を中心とする14の地域中核病院において8週間の実習を行い、地域医療の現場の実態を理解させている。

## ※「地域医療」に関するカリキュラム概要

### (1年次)

医療学入門 1単位 学内講義室及び福祉施設において実施。

#### ・全体

豊かな人間性を持った「よき医療人」となるために、複数のユニットに分けて、基本的な医療倫理、ヒューマニズムならびにプロフェッショナリズム、良好な病者・医療者関係、医療と地域社会との関わりについて理解し、生涯にわたって自らの行動規範として実践できる姿勢を身に付け、また、病む人の心を理解し共感を持って温かく接することのできる、医療人としての基本的態度を修得する。その中で、地域医療に関する内容は、次の4ユニットで行っている。

#### ・ユニット1

医学部医学科，看護学科，薬学部の全学生が横断的に参加し，将来，地域チーム医療を担う者が共通の経験，認識を共有することで，「よき医療人」像をイメージできるようにするために，病む人，障がい者や老人の介護を担っている方，薬害被害に関わられた方の語りを通して，病者－医療者の基本的信頼関係，病む人の心理，欲求，行動，価値観，人生観を総合的に理解し，医療系学生に将来プロフェッショナル医療人として求められる，義務と裁量権，人の命の守護者としての基本的態度，適切な支援を行うことができる態度，技能と知識を身につける。

#### ・ユニット2

新入生医療学研修

プロフェッショナリズム教育の一環として，医学薬学の教育理念を学びとり，協力，相互の規律正しい集団活動をとおして，学生教職員間の交流親睦を深め，今後の学園生活を豊かにすることを目的として実施。（令和2・3年度は新型コロナ感染予防対策のため中止）

心肺蘇生講習会（令和2～5年度はコロナ感染予防対策のためオンラインで実施）

近隣消防署やボランティアの協力により，医，薬，看護学生のグループによる心肺蘇生法講習（普通救命講習Ⅰ）を行う。

#### ・ユニット3

全人的医療を推進できる医療者となるために，医療と社会との関係を理解する。

#### ・ユニット4

プライマリケアにとって重要な医療と福祉の連携を要介護者の福祉施設における介護体験を通して理解する。

(3年次)

・環境保健学 1単位 学内講義室において実施。

この中で社会と健康・疾病との関係や地域医療について理解し、個体及び集団をとりまく環境要因の変化による個人の健康と社会生活への影響について学ぶ。

・疫学 1単位 学内講義室において実施。

疫学一般について学修するとともに、教員が実行委員として参画した疫学調査(富山県認知症高齢者実態調査)の経験やデータに基づき、富山県の認知症の実態、将来予測、対策について学ぶ。

・富山医療学 1単位 学内講義室において実施。

国の保健・医療・福祉と介護の制度(母子保健, 老人保健, 精神保健, 学校保健, 医療関連法規)を学修するとともに、富山県医師会や全国健康保険協会富山支部、富山県の協力を得て、国の制度と比較しつつ、富山県の保健・医療・福祉と介護の現状や課題及び今後について学ぶ。

(4年次～6年次)

・総合診療科における臨床実習において、地域医療に関するレクチャーを行うほか、富山県内を中心とする9の地域中核病院で1週間の地域医療実習を行い、プライマリケアや病診連携・病病連携、在宅医療などを体験させている。

(5年次～6年次)

・選択制臨床実習 附属病院で16週間、富山県内を中心とする14の地域中核病院で8週間、計24週間のクリニカル・クラークシップを実施している。

## (2) 富山県との連携

富山県においては、地域医療の課題解決に必要な医師を確保するため、富山大学と連携の一つである、医療従事者の確保・養成を行うため卒業一定期間の地域医療等の従事を条件とする奨学金を設定した。この奨学金は、総合型選抜「富山県特別枠」で入学した学生を対象としている。

総合型選抜「富山県特別枠」の出願要件については、富山県内の高等学校等を卒業見込みの者若しくは卒業後2年以内の者又は出願時に富山県在住で2年以内に高等学校卒業認定試験に合格した者と富山県出身者を対象とし、かつ、医師免許取得後、富山県内で診療に従事することを確約することとしており、特段の事情がない限り、卒業後、富山県内で診療に従事することが見込まれる。

奨学金の内容は下記のとおりである。

## ※奨学金の概要

### ・名 称

富山県地域医療確保修学資金貸与制度

### ・貸与額

修 学 費： 100,000円（月額）

入学料相当額： 282,000円

授業料相当額： 535,800円（年額）

6年間総支給額： 10,696,800円

### ・返還免除の条件

富山大学を卒業後、医師となり、別に定めるキャリア形成プログラムに基づきその後指定された臨床研修病院で臨床研修を2年間行った後、知事が貸与生ごとに指定する医療機関において、地域医療に必要な診療科で、9年間診療に従事した場合、返還を免除する。

### ・支給対象

医学科総合型選抜「富山県特別枠」の入学者全員を対象とする。

### ・選抜方法

#### ①出願要件

- ・富山県内の高等学校、特別支援学校の高等部又は高等専門学校の3年次を卒業（修了）見込みの者又は卒業（修了）後2年以内の者
- ・出願時に富山県在住で、高等学校卒業程度認定試験に合格した者
- ・医師免許取得後、一定期間富山県内で診療に従事することを確約できる者
- ・富山県内の地域医療に貢献するという強い意志を有する者
- ・大学入学共通テストの国語、地理歴史又は公民、数学、理科及び外国語を受験する者
- ・合格した場合に入学を確約できる者

#### ②選抜方法

- ・志願者が提出した自己推薦書及び調査書、試験当日に課す小論文と面接の結果並びに大学入学共通テストの成績を総合して選抜を行う。

## (3) 医療機関としての地域医療への貢献

学部教育における「地域医療」及び卒業後の専門医研修の充実を通して、地域医療に対する使命感を持ち、高度な知識・技術を有する専門医や幅広く病気を診ることのできる総合医の養成を目指す。さらに、高校訪問やアカデミックインターンシップの実施を通して、富山県内高校生等の意欲と関心を高めるとともに、地域医療に従事することを前提とする奨学金と地域枠の継続により、引き続き、県内医師不足分野の医師養成を行い、県内医療機関への定着を図る。

令和6年度  
医学部入学定員増員計画

富大杉学第122号  
令和5年8月21日

文部科学省高等教育局長 殿

国立大学法人富山大学長  
齋 藤 滋  
(公 印 省 略)

「地域の医師確保等の観点からの令和6年度医学部入学定員の増加について（令和5年8月8日文部科学省高等教育局長・厚生労働省医政局長通知）」を受けて、標記に関する資料を提出します。

<連絡先>

責任者連絡先	職名・氏名	杉谷地区事務部学務課長 高橋 知裕
	TEL	076-434-7120
	FAX	076-434-4545
	E-mail	mpkyomu@adm.u-toyama.ac.jp

大学名	国公立
富山大学	国立

1. 現在（令和5年度）の入学定員（編入学定員）及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
105	5	0	655

↑  
(収容定員計算用)

	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
(ア) 入学定員	105	105	105	105	105	105	630
(イ) 2年次編入学定員	5	5	5	5	5	0	25
(ウ) 3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	110	110	110	110	110	105	655

2. 本増員計画による入学定員増を行わない場合の令和6年度の入学定員（編入学定員）及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
95	5	0	595

↑  
(収容定員計算用)

	R6	R7	R8	R9	R10	R11	計
(ア) 入学定員	95	95	95	95	95	95	570
(イ) 2年次編入学定員	5	5	5	5	5	0	25
(ウ) 3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	100	100	100	100	100	95	595
(臨時的な措置で減員した場合、その人数)							

3. 令和6年度の増員計画

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
105	5	0	605

↑  
(収容定員計算用)

	R6	R7	R8	R9	R10	R11	計
(ア) 入学定員	105	95	95	95	95	95	580
(イ) 2年次編入学定員	5	5	5	5	5	0	25
(ウ) 3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	110	100	100	100	100	95	605
(臨時的な措置で減員した場合、その人数)							

増員希望人数 **10**

(内訳)

(1) 地域の医師確保のための入学定員／編入学定員増（地域枠）	<b>10</b>
(2) 研究医養成のための入学定員／編入学定員増（研究医枠）	
計	<b>10</b>

## 1. 地域の医師確保のための入学定員増について

増員希望人数

### (1) 対象都道府県名及び増員希望人数

	都道府県名	増員希望人数
大学が所在する都道府県	富山県	10
大学所在地以外の都道府県		
計		10

※「大学所在地以外の都道府県」が5都道府県未満の場合は、残りの欄は空欄でご提出ください。

### (2) 修学資金の貸与を受けた地域枠学生の確保状況

都道府県名	R4地域枠定員 (※1)	R4貸与者数 (※2)	R5地域枠定員 (※1)	R5貸与者数 (※2)	R4とR5の貸与者数 のうち多い方の数
富山県	10	15	10	16	16
					0
					0
					0
					0
計	10	15	10	16	16

(※1) 臨時定員分のみご記入ください。

(※2) 恒久定員の中で地域枠を実施している場合、恒久定員分の地域枠の人数も含めた修学資金の貸与実績をご記入ください。

※6都道府県未満の場合は、残りの欄は空欄でご提出ください。



(3) 令和6年度地域の医師確保のための入学定員増について

1. 大学が講ずる措置

1-1. 地域枠学生の選抜

① 令和4年度に実施した地域枠学生(令和5年入学)の選抜について、下記をご記入ください。複数種類の選抜を行った場合には、それぞれご記入ください。また、参考として学生募集要項の写しをご提出ください。

名称	入試区分	選抜方式	募集人数		選抜方法(※1)	出願要件(※1)	診療科の限定の有無	(診療科の限定(推奨)がある場合)その診療科名	開始年度	備考
				うち臨時定員分						
医学部医学科 総合型選抜 「富山県特別枠」	(ii) 総合型選抜	別枠(先行型)	10	10	<p>入学者の選抜は、書類審査(自己推薦書, 調査書), 小論文と面接の結果並びに大学入学共通テストの成績を総合して行う。</p> <p>ただし、小論文又は面接において、評価が合格に達しない場合は、合格の対象としない。</p> <p>【配点】 書類審査・面接150点, 小論文100点, 大学入学共通テスト※900点、合計1150点</p> <p>※【大学入学共通テストの利用教科・科目及び配点】を参照</p>	<p>次の(1),(2)のいずれかに該当し、かつ、①から④まですべてに該当する者</p> <p>(1) 富山県内の高等学校を令和5年3月卒業見込みの者(学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき、令和4年度中に高等学校を卒業又は卒業見込みの者を含む。)又は卒業後2年以内の者</p> <p>(2) 出願時に富山県在住で、令和3年4月以降に高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者</p> <p>① 富山県地域医療確保修学資金を受給し、医師免許取得後、一定期間(「富山県地域医療確保修学資金貸与制度」の規定による。), 富山県内で診療に従事することを確約できる者</p> <p>② 富山県内の地域医療に貢献するという強い意志を有する者</p> <p>③ 令和5年度大学入学共通テストの国語, 地理歴史又は公民, 数学, 理科及び外国語を受験する者</p> <p>④ 合格した場合に入学が確約できる者</p>	有	<p>小児科, 外科(※1), 産科, 麻酔科, 救急科, 総合診療科, 脳神経外科, 感染症内科(※2)</p> <p>※1 外科は、新専門医制度の基本領域における「外科」のみを指し、整形外科及び形成外科は含まない。基本領域「外科」を修了した後、サブスペシャリティ領域の専門分野に従事する場合は、「呼吸器外科, 消化器外科, 乳腺外科, 小児外科」を対象とする。 ※2 基本領域「内科」を修了した後、サブスペシャリティ領域「感染症」の専門分野に従事する場合を対象とする。</p>	R4	医学部医学科特別選抜(自己推薦入試「富山県特別枠」)として実施していた選抜を令和3年度実施(令和4年入学)から名称を総合型選抜「富山県特別枠」に変更
合計			10	10						

(※1) 貴大学において作成した学生募集要項に記載の内容をご記入ください。

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

②令和5年度に実施する地域枠学生(令和6年入学)の選抜について、下記をご記入ください。複数種類の選抜を行っている場合には、それぞれご記入ください。

また、参考としてPRのために作成した文書(リーフレット、ホームページ、テレビ、新聞、雑誌等)の写しをご提出ください。

名称	入試区分	選抜方式	募集人数		選抜方法(※1)	出願要件(※1)	診療科の限定の有無	(診療科の限定(推奨)がある場合)その診療科名	開始年度	備考
				うち臨時定員分						
医学部医学科 総合型選抜 「富山県特別枠」	(ii) 総合型選抜	別枠(先行型)	10	10	<p>入学者の選抜は、大学入学共通テスト、書類審査(自己推薦書、調査書)、小論文及び面接の結果を総合して行う。ただし、小論文又は面接において、0点の場合は、合格の対象としない。</p> <p>【配点】 書類審査・面接150点、小論文100点、大学入学共通テスト※900点、合計1150点</p> <p>※【大学入学共通テストの利用教科・科目及び配点】を参照</p>	<p>次の(1),(2)のいずれかに該当し、かつ、①から④まですべてに該当する者</p> <p>(1) 富山県内の高等学校、特別支援学校の高等部又は高等専門学校の3年次を令和6年3月31日までに卒業(修了)見込みの者又は卒業(修了)後2年以内の者</p> <p>(2) 出願時に富山県在住で、令和4年4月以降に高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者</p> <p>① 富山県地域医療確保修学資金を受給し、医師免許取得後、一定期間(「富山県地域医療確保修学資金貸与制度」の規定による。)、富山県内で診療に従事することを確約できる者</p> <p>② 富山県内の地域医療に貢献するという強い意志を有する者</p> <p>③ 令和6年度大学入学共通テストの国語、地理歴史又は公民、数学、理科及び外国語を受験する者</p> <p>④ 合格した場合に入学が確約できる者</p>	有	<p>小児科、外科(※1)、産科、麻酔科、救急科、総合診療科、脳神経外科、感染症内科(※2)</p> <p>※1 外科は、新専門医制度の基本領域における「外科」のみを指し、整形外科及び形成外科は含まない。基本領域「外科」を修了した後、サブスペシャリティ領域の専門分野に従事する場合は、「呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科、小児外科」を対象とする。</p> <p>※2 基本領域「内科」を修了した後、サブスペシャリティ領域「感染症」の専門分野に従事する場合は対象とする。</p>	R4	
合計			10	10						

(※1) 貴大学において、PRのために作成した文書(リーフレット、ホームページ、テレビ、新聞、雑誌等)に記載の内容(貴大学において作成予定の学生募集要項に記載予定の内容)をご記入ください。

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

## 1-2. 教育内容

① 地域枠学生が卒後に勤務することが見込まれる都道府県での地域医療実習など、地域医療を担う医師養成の観点からの教育内容の概要（令和6年度）について、5～6行程度で簡潔にご記入ください。

1年次には「医療学入門」において地域の高齢者施設等で「介護体験実習」を行い、地域の保健・医療・福祉・介護の現場を体験学修する。3年次の「環境保健学」や4年次の「富山医療学」で、地域における保健・医療・福祉・介護の現状と課題や関連する法制度の学修をする。4年次後半からの臨床実習では、富山県内の病院等で、救急医療、在宅医療、プライマリケア等の地域医療全般を学修する。  
また、ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業で提供する、「地域を守る医療人の養成プログラム」の『エッセンシャル・コース』並びに『アドバンスド・コース』を学修することにより、地域医療を担う医師としての資質を高める。

（参考：記入例）  
1～2年次には、「○○」という科目を開講するとともに「△△」を必修化し、～～を学んでいる。3～4年次には、××実習を行い、～～を学んでいる。またキャリア支援として□□を実施している。令和4年度からは、■●を新たに開始するなど、～～を図ることとしている。

②（過去に地域枠を設定したことがある場合）これまでの取組・実績を、3～5行程度で簡潔にご記入ください。

地域定着の取組みとして、6年間を通じた地域医療に関するカリキュラムを実施している。また、地域枠に限らず県内高校出身率を高めるための取組みとしては、県内高校訪問やアカデミック・インターンシップ等の高大連携を充実させている。また、地域枠・特別枠学生と大学教員との人間関係や信頼関係を強固なものにするために定期的な面談や事業等を実施している。

（参考：記入例）  
平成○年度から地域枠による増員を開始し、□□、■●などの取組を行ってきた。令和4年度までに△名の地域枠学生を確保し、そのうち▲名が現在～～として地域医療に貢献している。

③ 上記①の教育内容（正規科目）について、講義・実習科目内容をご記入ください。また、参考としてシラバスの写しをご提出ください。

対象学年	講義・実習名	対象者 (※1)	必修／選択の別		講義／実習の別	単位数	開始年度
			地域枠学生	その他の学生			
1年生	医療学入門	全員	必修	必修	実習	1	H21以前
3年生	環境保健学	全員	必修	必修	講義	1	H21以前
3年生	疫学	全員	必修	必修	講義	1	R4
3年生	救急・災害医学	全員	必修	必修	実習	1	H21以前
4年生	富山医療学	全員	必修	必修	講義	1	H30
4年生	社会医学実習	全員	必修	必修	講義	1	H21以前
4から6年生	臨床実習（総合診療科）	全員	必修	必修	実習	2	H21以前
4から6年生	臨床実習（救急科）	全員	必修	必修	実習	2	H21以前
4から6年生	臨床実習（地域医療）	全員	必修	必修	実習	1	H21以前
5から6年生	選択制臨床実習	全員	必修	必修	実習	12	H21以前

（※1）対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「地域枠学生」「全員」のうちから選択ください。（地域枠学生の希望者のみの場合は、対象者を「地域枠学生」、必修／選択の別を「選択」とご記載ください。）

※空欄がある場合は、何も記入せずそのままにご提出ください。

④大学の正規科目以外で、提供する地域医療教育プログラムがあれば、その内容をご記入ください。

対象学年	プログラム名	対象者 (※1)	都道府県との連携	期間 (例：〇週間)	プログラムの概要（1～2行程度）	開始年度
1～6年	特定診療科キャリアパスガイダンス	地域枠学生	富山県が大学に設置する地域医療総合支援学講座で実施	年3回	富山県特別枠の特定診療科（選択できる診療科）のキャリア形成ついて、先輩医師から情報を提供するセミナー	H29
1～6年	富山県特別枠の集い	地域枠学生	富山県が大学に設置する地域医療総合支援学講座で実施	年1回	富山県特別枠出身の先輩医師による講演と学生との懇談会	H29
主に1年	地域枠・富山県特別枠新入生歓迎会	地域枠学生	富山県が大学に設置する地域医療総合支援学講座で実施	年1回	医学部長・病院長・特定診療科の医師による地域医療へのモチベーション形成のための歓迎会	H29
1～6年	とやま医療未来塾	全員	富山県が大学に設置する地域医療総合支援学講座で実施	年3回	富山の地域医療に携わる医師を要請するためのセミナー	R4

(※1) 対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「地域枠学生」「全員」のうちから選択ください。  
※該当がない場合は、何も記入せずにご提出ください。

⑤上記③④以外に、地域医療を担う医師の養成に関する取組等があれば、簡潔にご記入ください。（令和4年度以前から継続する取組を含む）（1～2行程度）

取組の名称	取組の概要（1～2行程度）	開始年度

※空欄がある場合は、何も記入せずそのままご提出ください。

## 2. 都道府県等との連携

①都道府県が設定する奨学金について、以下をご記入ください。併せて、都道府県が厚生労働省に提出する予定の地域の医師確保等に関する計画及び「地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律」（平成元年法律第64号）第4条に規定する都道府県計画等に位置づけることを約束する文書を添付して下さい。

なお、複数の奨学金を設定している場合は、それぞれ記入ください。

奨学金の設定 主体	貸与人数	貸与対象	貸与額（例：200,000）		返還免除要件	選抜方法		診療科の限定 の有無	（診療科の限定 （推奨）がある場 合） その診療科名	備考
			月額	総貸与額		選抜時期	大学の関与の 有無（※1）			
富山県	10	新入生	100,000	10,696,800	<p>富山大学を入学後、別に定めるキャリア形成卒前支援プラン（※1）の適用を受けることに同意の上、卒業後は、キャリア形成プログラム（※2）に基づきその後指定された臨床研修病院で臨床研修（医師法第16条の2第1項に規定する研修）を2年間行った後、知事が貸与生ごとに指定する医療機関において、地域医療に必要な診療科（小児科、外科（※3）、産科、麻酔科、救急科、総合診療科、脳神経外科、感染症内科（※4））で、9年間（※5）（修学資金貸与期間の1.5倍）診療に従事した場合、返還を免除します。（返還免除の条件を満たさない場合は、貸与額に所定の利率を乗じて得た額を返還していただきます）</p> <p>※1 キャリア形成卒前支援プランとは、大学や医療機関等と連携し、学生の地域医療等の意識の涵養を図るためのプロジェクト（卒前支援プロジェクト）です。</p> <p>※2 キャリア形成プログラムとは「富山県特別枠」で入学し、卒業後、医師免許を取得した者を対象として、地域医療に従事する医師のキャリア形成上の不安解消、医師不足地域・診療科の解消を目的として、富山県が主体的となり、策定された医師の就業に係るプログラムです。</p> <p>※3 外科は、新専門医制度の基本領域における「外科」のみを指し、整形外科及び形成外科は含みません。基本領域「外科」を修了した後、サブスペシャリティ領域の専門分野に従事する場合は、「呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科、小児外科」を対象とします。</p> <p>※4 基本領域「内科」を修了した後、サブスペシャリティ領域「感染症」の専門分野に従事する場合は、「呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科、小児外科」を対象とします。</p> <p>※5 返還免除に必要な期間は、臨床研修の2年間に診療従事の9年間を加えた11年間となります。</p>	②大学における選抜と同時に都道府県において面接等を実施	○	有	<p>小児科、外科（※1）、産科、麻酔科、救急科、総合診療科、脳神経外科、感染症内科（※2）</p> <p>※1 外科は、新専門医制度の基本領域における「外科」のみを指し、整形外科及び形成外科は含まない。基本領域「外科」を修了した後、サブスペシャリティ領域の専門分野に従事する場合は、「呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科、小児外科」を対象とする。</p> <p>※2 基本領域「内科」を修了した後、サブスペシャリティ領域「感染症」の専門分野に従事する場合は対象とする。</p>	<p>選抜において、富山大学教員並びに富山県担当者が合同で面接を行っている。また、大学入学共通テストを課している。</p> <p>総貸与額10,696,800円には、月額貸与額100,000円×72ヶ月=7,200,000円の他、入学料相当額282,000円及び授業料相当額535,800×6年=3,214,800円を含んでいる。</p>

（※1）診療科の限定または推奨がある場合は、備考欄に詳細をご記入ください。

※該当がない場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

②その他、都道府県と連携した取組があれば、簡潔にご記入ください。（例：在学中の学生に対する都道府県と連携した相談・指導、卒後のキャリアパス形成等に対する支援）（1～2行程度）

取組の名称	取組の概要（1～2行程度）	開始年度
富山県特別枠学生との個別面談	富山県特別枠学生全員（5～6年生）の個別面談（相談・進路指	H29
富山県特別枠卒業生との個別面	富山県特別枠を卒業した初期研修医に対して個別面談（相談・進路指	R1

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

### 3. その他

**1～2に記入したもの以外で**、その他、地域の医師確保の観点から大学の今後の取組があれば、簡潔にご記入ください。（1～3行程度）

特に、都道府県からの奨学金の貸与を受ける者、地域枠入学者を確保するために貴大学で取り組まれていることや今後の取組み予定がありましたら、ご記入ください。

令和元年度から、これまで富山県特別枠学生にのみ行ってきた定期面談を、地域枠学生（富山県からの奨学金支給がない推薦入試で選抜された学生）も一緒に、クラス担当教員や地域医療関係教員の指導のもと、地域定着のための定期面談を実施することにした。

教 育 課 程 等 の 概 要															
(医学部医学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	人文科学系	哲学のすすめ	1前・後	2		○									兼1
		人間と倫理	1前・後	2		○									兼1
		こころの科学	1前・後	2		○									兼1
		現代と教育	1前・後	2		○									兼1
		日本の歴史と社会	1前・後	2		○									兼1 地域志向科目
		東洋の歴史と社会	1前・後	2		○									兼1
		西洋の歴史と社会	1前・後	2		○									兼1
		日本文学	1前・後	2		○									兼1
		外国文学	1前・後	2		○									兼1
		言語と文化	1前・後	2		○									兼1 地域志向科目
		音楽	1前・後	2		○									兼1
		美術	1前・後	2		○									兼1
		美術表現A	1前・後	2		○									兼1
		美術表現B	1前・後	2		○									兼1
		言語表現	1前・後	2		○									兼1
		治療の文化史	1前・後	2		○									兼1
		異文化間コミュニケーション	1前・後	2		○									兼1
異文化理解	1前・後	2		○									兼1 外国人留学生限定		
	小計(18科目)	-	0	36	0	-	-	-	0	0	0	0	0	兼18	
社会科学系		現代社会論	1前・後	2		○									兼1 地域志向科目
		日本国憲法	1前・後	2		○									兼1
		国家と市民	1前・後	2		○									兼1
		経済生活と法	1前・後	2		○									兼1
		市民生活と法	1前・後	2		○									兼1
		はじめての経済学	1前・後	2		○									兼1
		産業と経済を学ぶ	1前・後	2		○									兼1
		経営資源のとらえ方	1前・後	2		○									兼1
		市場と企業の関係	1前・後	2		○									兼1
		地域の経済と社会・文化	1前・後	2		○									兼1 地域志向科目
	小計(10科目)	-	0	20	0	-	-	-	0	0	0	0	0	兼10	
自然科学系		自然科学への扉-A	1前・後		2	○									兼1
		自然科学への扉-B	1前・後		2	○									兼1
		自然科学への扉-C	1前・後		2	○									兼1
		科学技術への扉-A	1前・後		2	○									兼1
		科学技術への扉-B	1前・後		2	○									兼1
		生命の世界	1前・後		2	○				1					
		社会と情報の数理	1前・後		2	○									兼1
		デザインと生物	1前・後		2	○									兼1
	小計(8科目)	-	0	0	16	-	-	-	0	1	0	0	0	兼7	
理系基盤教育系		生命科学I-A	1前	2		○									兼1
		生命科学II-A	1後	2		○									兼1
		生物学実験-A	1後	1					○						兼1
		解析学-A	1前	2		○									兼1
		線形代数学	1後	2		○									兼1
		物理学I-A	1前	2		○									兼1
		物理学I-B	1前	2		○									兼1
		物理学II-A	1後	2		○									兼1
		物理学II-B	1後	2		○									兼1
		化学・物理学実験-A	1前	1											兼1
		現代物理学入門	1後	2		○									兼1
		基礎化学-A	1前	2		○									兼1
		生体有機化学	1後	2		○									兼1
		生物無機化学入門	1後	2		○									兼1
	小計(14科目)	-	12	14	0	-	-	-	0	0	0	0	0	兼6	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	医療・健康科学系	医療心理学	1前・後		2	○			1						兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	地域志向科目
		概説医療心理学	1前・後	1		○			1							
		認知科学	1前・後		2	○				1						
		脳科学入門	1前・後		2	○										
		生命科学入門	1前・後		2	○										
		免疫学入門	1前・後		2	○										
		身近な医学	1前・後		2	○				1						
		障害とアクセシビリティ	1前・後		2	○										
		医療と地域社会	1前・後		2	○										
	小計(9科目)	-	1	14	2	-	-	-	2	0	0	0	0	0	兼5	-
	総合科目系	環境	1前・後		2	○									兼1	地域志向科目
		ジェンダー	1前・後		2	○									兼1	
		技術と社会	1前・後		2	○									兼1	
		現代文化	1前・後		2	○									兼1	地域志向科目
		人権と福祉	1前・後		2	○									兼1	地域志向科目
		環日本海	1前・後		2	○									兼1	地域志向科目
科学と社会		1前・後		2	○									兼1		
アカデミック・デザイン		1前・後		2	○									兼1	地域志向科目	
ビジネス思考		1前・後		2	○									兼1	地域志向科目	
データサイエンスの世界		1前・後		1	○									兼1		
データサイエンスの実践		1前・後		1	○									兼1		
教養としての都市デザイン学		1前・後		2	○									兼1	地域志向科目	
SDGs入門		1前・後		2	○									兼1		
薬都とやま学		1前・後		2	○									兼1	地域志向科目	
平和学入門		1前・後		2	○									兼1		
東アジア共同体論-政治・経済・文化-		1前・後		2	○									兼1		
富山から考える震災・復興学		1前・後		2	○									兼1		
環境と安全管理		1前・後		2	○									兼1		
万葉学		1前・後		2	○									兼1	地域志向科目	
日本海学		1前・後		2	○									兼1	地域志向科目	
富山大学学		1前・後		2	○									兼1	地域志向科目	
とやま地域学		1前・後		2	○									兼1	地域志向科目	
時事的問題		1前・後		2	○									兼1	集中	
災害救援ボランティア論		1前・後		2	○									兼1	集中 地域志向科目	
感性をはぐくむ		1前・後		2	○									兼1		
日本事情／芸術文化		1前・後		2	○									兼1	外国人留学生限定	
日本事情／自然社会		1前・後		2	○									兼1	外国人留学生限定	
学士力・人間力基礎		1前・後		2	○									兼1		
富山学		1前・後		2	○									兼1	集中 地域志向科目	
地域ライフプラン		1前・後		2	○									兼1	地域志向科目	
産業観光学		1前・後		2	○									兼1	地域志向科目	
富山のものづくり概論		1前・後		2	○									兼1	地域志向科目	
富山の地域づくり		1前・後		2	○									兼1	地域志向科目	
小計(33科目)	-	0	64	0	-	-	-	0	0	0	0	0	0	兼28	-	
外国語系	E S P I (Level-based)	1前	1			○								兼1		
	E S P II (Interest-based)	1後	1			○								兼1		
	基盤英語 I	1前	1			○								兼1		
	基盤英語 II	1後	1			○								兼1		
	ドイツ語基礎 I	1前		1		○								兼1		
	ドイツ語基礎 II	1後		1		○								兼1		
	ドイツ語コミュニケーション I	1前		1		○								兼1		
	ドイツ語コミュニケーション II	1後		1		○								兼1		
	フランス語基礎 I	1前		1		○								兼1		
	フランス語基礎 II	1後		1		○								兼1		
	フランス語コミュニケーション I	1前		1		○								兼1		
フランス語コミュニケーション II	1後		1		○								兼1			
中国語基礎 I	1前		1		○								兼1			



科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考						
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手							
教養 教育科目	外国語系	中国語基礎Ⅱ	1後	1				○								兼1				
		中国語コミュニケーションⅠ	1前	1				○								兼1				
		中国語コミュニケーションⅡ	1後	1				○								兼1				
		朝鮮語基礎Ⅰ	1前	1				○								兼1				
		朝鮮語基礎Ⅱ	1後	1				○								兼1				
		朝鮮語コミュニケーションⅠ	1前	1				○								兼1				
		朝鮮語コミュニケーションⅡ	1後	1				○								兼1				
		ロシア語基礎Ⅰ	1前	1				○								兼1				
		ロシア語基礎Ⅱ	1後	1				○								兼1				
		ロシア語コミュニケーションⅠ	1前	1				○								兼1				
		ロシア語コミュニケーションⅡ	1後	1				○								兼1				
		日本語リテラシーⅠ	1前	1				○								兼1	外国人留学生限定			
		日本語リテラシーⅡ	1後	1				○								兼1	外国人留学生限定			
		日本語コミュニケーションⅠ	1前	1				○								兼1	外国人留学生限定			
		日本語コミュニケーションⅡ	1後	1				○								兼1	外国人留学生限定			
		発展多言語演習ドイツ語	2前	1				○								兼1	集中			
	発展多言語演習中国語	2前	1				○								兼1	集中				
	日本語コミュニケーションⅢ	2前			1		○								兼1	外国人留学生限定				
	日本語／専門研究	2前			1		○								兼1	外国人留学生限定				
	小計(32科目)		-	4	26	2			-				0	0	0	0	0	兼24	-	
体育 健系・	健康・スポーツ／講義	1後		1			○										兼1			
	健康・スポーツ／実技	1前	1							○							兼1			
	小計(2科目)		-	1	1	0			-			0	0	0	0	0	兼2	-		
情報 系	情報処理	1前	2					○									兼1			
	応用情報処理	1後			2			○									兼1			
	小計(2科目)		-	2	0	2			-			0	0	0	0	0	兼2	-		
専門 教育科目	語学	医学英語Ⅰ	2前	1				○				1								
		医学英語Ⅱ	3後	1				○				1								
		医学英語Ⅲ	4前	1				○				1								
	基本的な 資質・ 能力	医学概論	1後	1				○				4						兼1		
		医療学入門	1前	1				○		※		2						兼4	オムニバス ※実習	
		生命倫理学	3後	1				○										兼1		
		医療の質と安全の管理	4前	1				○				1								
		コミュニケーションとチーム医療	4前	1				○					1							
		医学薬学史	4後	1				○				1								
	医療プロフェッショナルリズム	4後・6前	1				○				6									
小計(10科目)		-	10	0	0			-			11	1	0	0	0	0	兼5	-		
医学 一般	個体の 構成と 機能	ヒトの構造の基礎	1後	1				○				2				2				
		解剖学および解剖学実習	2前	5				※		○		1							※講義	
		組織学	2前	2				○				1			2					
		人体発生学	2前	1				○											兼1	
		医科分子生物学	2前	3				○		※		2	1						※実験	
		生理学	2前	3				○				2	1			3			兼1	
		生理学実習	2前	1						○		2	1			3				
		基礎医学統合	2前	1				○				2								
	個体の 反応	微生物学	2後	3				○				2								
		免疫学	2後	3				○				1								
		薬理学	2後	3				○				1								
	病態 と	病 因 と	病理学	2後	3				○				1	1			3			兼1
			行動科学	1後	1				○				1							
小計(13科目)		-	30	0	0			-			11	4	0	8	0	0	兼2	-		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	社会と医学・医療	診療情報・臨床研究と医療	3後	1			○			1			1			
		疫学	3後	1			○			1						
		環境保健学	3後	1			○			1						
		法医学	4前	2			○			1						
		救急・災害医学	3後	1			○			1						
		社会医学実習	4前	1			○			2	1	1	2			
		富山医療学	3後	1			○			1						
		医学統計	4前	1			○			2	1	1	1			
	小計(8科目)	—	9	0	0	—			5	1	1	3	0		—	
	療人体の各器官の正常構造と機能・病態・診断・治療	血液・造血器・リンパ系	3前	3			○			1		2	1			
		皮膚系	3前	2			○			1						
		呼吸器系	3前	3			○			1	1					
		内分泌・栄養・代謝・乳房	3前	3			○			2		1				
		眼・視覚系	3前	1			○			1						
		耳鼻咽喉系	3前	2			○					1				
		運動器(筋骨格)系	3前	3			○			1		1				
循環器系		3前	3			○			2							
消化器疾患		3後	3			○			2	1						
腎・尿路系疾患		3後	2			○			1		1					
生殖系		3後	2			○			2			1				
口腔系		3前	1			○			1	1						
精神系		3前	2			○			1	1						
神経系		4前	3			○			2			1				
妊娠と分娩	4前	1			○			1			1					
神経・脳科学	4後	2			○			3								
小計(16科目)	—	36	0	0	—			16	4	5	4	0		—		
診断・治療	全身におよぶ生理的变化・病態・	和漢医薬学入門	2前	1			○		※	1					兼25	
		放射線基礎医学	2後	1			○			1	1				オムニバス ※実験	
		成長と発達	3前	1			○				1					
		和漢診療学	3前	1			○			1						
		免疫・アレルギー疾患	3後	2			○			1		1				
		遺伝医学	3後	1			○				1					
		臨床腫瘍	3後	1			○			1						
		感染症	4前	2			○			1						
		老年医学	4前	1			○			1						
		臨床医学統合	3後・4後	2					○	1						
小計(10科目)	—	13	0	0	—			6	3	1	0	0	兼25	—		
診療の基本		外科学総論	3前	1			○			2		2				
		臨床検査医学	3前	1			○				1	1				
		放射線医学	3後	2			○			1						
		医用工学	3後	1			○			1						
		リハビリ医学	3後	1			○			1						
		形成再建・美容系	3通	1			○			1						
		周術期管理学	4前	1			○				1					
		緩和医療	4前	1			○			1						
		臨床薬理・EBMと医療	4前	1			○			1						
		症候・病態からのアプローチ	4前	2			○				1				兼1	
		基本的診療技能	4前	2					○	1						
小計(11科目)	—	14	0	0	—			9	3	3	0	0	兼1	—		
臨床実習	学内	第一内科	4通～6通	2					○	1						
		第二内科	4通～6通	2					○	1						
		第三内科	4通～6通	2					○	1						
		血液内科	4通～6通	1					○	1						
		皮膚科	4通～6通	1					○	1						
		小児科	4通～6通	2					○		1					
		神経精神科	4通～6通	2					○	1						

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
専門 教育 科目	学 内 臨 床 実 習	放射線科	4通～6通	1					○	1							
		検査部	4通～6通	1					○		1	1					
		和漢診療科	4通～6通	1					○	1							
		脳神経内科	4通～6通	2					○	1			1				
		総合診療科	4通～6通	2					○	1	1						
		第一外科	4通～6通	2					○	1							
		第二外科	4通～6通	2					○	1		1					
		脳神経外科	4通～6通	2					○	1							
		整形外科	4通～6通	2					○	1		1					
		産科婦人科	4通～6通	2					○	1				1			
		眼科	4通～6通	1					○	1							
		耳鼻咽喉科	4通～6通	2					○	1							
		泌尿器科	4通～6通	1					○	1		1					
		麻酔科	4通～6通	2					○		1						
		歯科口腔外科	4通～6通	1					○	1							
		救急科	4通～6通	2					○	1							
		地域医療	4通～6通	1					○	1							
		感染症科	4通～6通	1					○	1							
		臨床腫瘍部	4通～6通	1					○	1							
		臨床病理部	4通～6通	1					○	1							
		形成再建外科・美容外科	4通～6通	1					○	1							
		リハビリテーション科	4通～6通	1					○	1							
		C P C	4通～6通	4					○	1							
		小計(30科目)		—	48	0	0			—	26	4	4	2	0		—
		1科選 目 択	研究室配属	3前		4				○	42	25	13	60	0		—
			小計(1科目)	—	0	4	0			—	42	25	13	60	0		—
		2科選 目 択	選択制臨床実習	5通～6通		12				○	26	4	4	2	0		—
			小計(1科目)	—	0	12	0			—	26	4	4	2	0		—
		科自 由	基礎研究演習	1通～6通			6			○	42	25	13	60	0		—
			小計(1科目)	—	0	0	6			—	42	25	13	60	0		—
合計(229科目)			—	180	191	28		—	42	25	13	60	0	兼138	—		
学位又は称号		学士(医学)			学位又は学科の分野			医学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等										
次の履修方法により212単位以上を履修すること。							1学年の学期区分		2学期								
・教養教育科目から必修20単位を含む36単位以上 ・専門教育科目の基本的な資質・能力から10単位、医学一般から30単位、社会と医学・医療から9単位、人体の各器官の正常構造と機能・病態・診断・治療から36単位、全身に及ぶ生理的変化・病態・診断・治療から13単位、診療の基本から14単位、臨床実習から48単位、選択科目1から4単位、選択科目2から12単位							1学期の授業期間		15週								
							1時限の授業時間		90分								

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
  - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
  - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
  - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。